



受付日：平成29年9月11日  
 受付番号：HP17-KT110

## 接合部性能試験成績証

東京都港区芝5-33-7  
 徳栄ビル本館4階  
 ハウスプラス確認検査株式会社  
 代表取締役社長 柳澤恒雄

試験結果は以下のとおりであることを証明する。  
 平成29年12月27日

1. 接合金物名称	クリ20コーナー K20
2. 試験依頼者	株式会社 栗山百造 〒955-0096 新潟県三条市井戸場84-9
3. 目的	当該接合金物を用いた接合部の短期基準接合耐力(引張)を評価する。
4. 試験内容	柱頭柱脚接合部及び横架材端部接合部を想定した中柱型引張試験 なお、準拠する試験方法・評価方法は、ハウスプラス確認検査株式会社制定「木造建築構造試験事業における接合部性能試験業務方法書(平成21年4月1日制定)」による。
5. 試験体仕様	<p>1) 接合金物</p> <p>「クリ20コーナー K20」1個        材質：SGHC(JIS G 3302<sup>*1</sup>)        寸法：55mm×65mm×150mm(外形) 板厚t=4.5mm        接合具用孔 7-φ7.4mm(柱側)        接合具用孔 4-φ7.4mm(横架材側)        表面処理：Z27(JIS G 3302<sup>*1</sup>)</p> <p>2) 接合具</p> <p>柱側<sup>*2</sup>：「クリスパイラルビス 7×65」7本        材質：SWRCH22A(JIS G 3507-1<sup>*3</sup>)相当材として以下の化学成分を満たすもの        C(0.18~0.23%), Si(0.10%以下), Mn(0.70~1.00%), P(0.030%以下),        S(0.035%以下), Al(0.020%以上)        寸法：φ7.0mm(最小断面径φ4.8mm) L=65mm 頭部径φ11.0mm        先端形状は、とがり先とする。        表面処理：ダクロタイズド</p> <p>横架材側：「クリ六角頭ビス 7×90」4本        材質：SWRCH22A(JIS G 3507-1<sup>*3</sup>)相当材として以下に掲げる鋼線<sup>*4</sup>        SAE 1022<sup>*5</sup>        SWRCH22A(JIS G 3507-1<sup>*3</sup>)        寸法：φ7.0mm(最小断面径φ5.0mm) L=90mm 頭部径φ11.0mm        先端形状は、とがり先とする。        表面処理：ラスパート処理</p> <p>3) 軸組材料</p> <p>柱材<sup>*2</sup>：105mm×105mm×700mm スギ 製材無等級        含水率：13.5~15.0% 全乾密度：0.39~0.41g/cm<sup>3</sup></p> <p>横架材：105mm×105mm×1,000mm スギ 製材無等級        含水率：11.5~14.5% 全乾密度：0.42~0.45g/cm<sup>3</sup></p> <p><sup>*1</sup> JIS G 3302 溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯  <sup>*2</sup> 試験体は柱頭柱脚部を想定しているが、横架材端部の接合で用いる場合は、柱材を横架材として読み替える。  <sup>*3</sup> JIS G 3507-1 冷間圧造用炭素鋼-第1部:線材  <sup>*4</sup> 試験ではSAE 1022を使用した  <sup>*5</sup> SAE Internationalが定める規格</p>
6. 試験条件等	試験体の固定は、柱芯から横架材両木口の接合金物側は200mm、非金物側は400mmの位置にM12ボルトと角座金W9.0×80を用いて鉄骨架台に緊結した。(締付トルク管理値:50N・m) また、横架材にズレが生じないように固定用治具を設けた。
7. 試験結果	短期基準接合耐力 <b>20.0</b> kN (詳細については接合部性能試験報告書に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜第二試験所: 神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-1 10番
9. 試験実施日	平成29年9月13日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 家納 吾郎 道場 信義 所 義登

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。